

平成26年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業)

NO	事業名	団体名	質疑内容
1	自主防災告知と訓練事業	栗ヶ沢中学校地域防災委員会	<p>【会長】 栗ヶ沢中学校を軸にした自主防災の取組が地域の中で認知され、浸透していると実感できる1年間だったと敬意を表する。自主防災についての認識の共有、取り組む課題の特定、関係者の合意形成などの経験を土台に、継続して自主防災活動を深めていくことを期待する。併せて、それらの経験は市内の他地域に役立つ知見であり、協働事業と並行する形になって労が多くなると思うが、「見える化」「伝える化」できるようにしていくことも期待する。</p> <p>【委員】 松戸市にとって、非常に有益な事業である。松戸市との市民活動助成事業だけでなく、協働事業としても今後期待できる。新たな試みも、先進的であり、他の地域にも波及するモデル事業にもなる。これからの松戸の協働の亀鑑として、大いに頑張って欲しい。プレゼンにおいても、正確な数値を出され、説得力のある素晴らしいものだった。</p> <p>【委員】 ・栗ヶ沢中学校区のほとんどの町会、民生委員他60名で構成されており、団体が発行する「栗防通信」においては、アンケートによれば40%の人々が認知していることは、素晴らしいことである。本事業における地域での浸透度が伺える。 ・訓練内容を決定する上で、女性が会議にも出席されているとの事だが、今後も、継続して、女性の視点を大切に取り組んでほしい。また、アルファメを使った食料、パンとお茶のセット配布を進めてほしい。 ・災害弱者支援ネット会議を開催する予定とのことだが、大変良いことなので是非取り組んでほしい。</p> <p>【委員】 中学校区にあるいくつもの自治会が参加する組織をつくり、機能させることは自体が困難さを感じることであり、様々なマネジメントが必要であったと思われる。避難所の立ち上げ、運営の訓練が多くの参加者で実施できたことは大きな成果です。2015年度は協働事業として実施されますが、今回の成果を活かして松戸市モデルとなるように期待します。</p> <p>【委員】 最近の各地方での自然災害を見聞きしていると、どんな災害が起こってもおかしくないように思います。栗ヶ沢中学校地域防災委員会の活動はとても積極的で、地域の住民の意識も大分高まってきているようです。今回の「収容避難所開設運営訓練」などなかなかできないことを学校や町内会と一緒にやって実施できたことは、とても感心します。是非この地域だけでなく、他の地域にもこの活動を広げてほしい。</p> <p>【委員】 自らの目標の達成度評価を⑤とした点だけを考えても素晴らしいです。「収容避難所開設運営訓練」を2小学校で同時に実施できたことも今後への期待感が高まります。市内の町会・自治会の代表者の現実をみると、まだ現在では仕方ないかとも思いますが、委員会のなかでの女性ももっと増えてほしいです。「避難所運営」における影響も大です。(我が町会でも多くの役員の思考は、「防災リーダー」＝男性になっているなど、あらゆる調整が大変です)</p>
2	市民後見人養成講座事業	認定NPO法人東葛市民後見人の会	<p>【会長】 「市民後見人」の意義と役割を市民へ普及したこと、市民後見人の予備軍(延べ400人)を輩出したことに敬意を表する。講座修了した人が活躍できる場の用意が、これからの大切な課題になると思うので、他団体や関係機関との連携を介して、場づくりに努められることを期待する。</p> <p>【委員】 今後、高齢社会が進展する中で、当該事業の意識は理解できる。松戸市においても「市民後見人」の普及がなされることは必要なことである。その際、先進事例を松戸市で作っていくことが求められるが親族(法定)や裕福な方々だけでなく、家庭裁判所から委託される後見人にどれくらい対応できるかというより協働の視点が要る分野である。かなり、御苦労されておられると思うが、ますます意欲的に頑張って頂きたい。</p> <p>【委員】 ・市民後見人養成事業について、募集人員50名に対し、参加申込みが53名、修了者45名であったということ、また、受講料5,000円ということは、大変充実している事業といえる。受講後のボランティアとして、相談業務の充実に、今後の事業展開の可能性を感じました。 ・家庭裁判所から、後見人として認定を受けているのは8件、任意後見が1件のことで、壁の厚さを感じました。</p> <p>【委員】 今後の地域社会にとって、市民後見人は重要な役割を担うことが想定される中、この事業では45名の市民が養成講座を受講されたことは成果です。実際に相談会を担う人材養成は継続的に実施することに期待します。</p> <p>【委員】 高齢社会が進む中で、成年後見制度の普及は益々必要になっています。本講座に予定を上回る参加申込みがあり、知識を修得する人が増えることは、必要とする人達には、力強い味方になると思います。また、更なる知識の修得を目指す受講者も多いと聞き、これからも人材育成の活動を進めてほしい。</p> <p>【委員】 今後も後見人への期待は高まる一方です。判断能力が確かでないように見受けられる家庭もままあり、将来への不安を抱える家族関係もあり、安心して生活できる要素としての「日常の財産管理がきちんとなされていること」は地域での「お互いへの安心感」につながります。一人でも多くの人が「市民後見人」への認知が高まることを期待しています。</p>

3	外国人の子どもと日本人の子どもが触れ合う集い事業	認定NPO法人外国人の子どものための勉強会	<p>【会長】 「相手のことを知る」ことを友だちづくりの起点にした点は、普遍性がある着眼点だと敬意を表する。地域のなかにおけるつながり、例えば学童保育や町内会などと連携することが、この取組を後押しする大事な要因となることが判ったので、今後ともその要因をふまえて活動することを期待する。 この活動で得た改善点（子どもを「外国人と日本人」で分けないこと）を次の活動に活かしていくことを期待する。</p> <p>【委員】 多文化共生の観点から、重要な事業である。市内の教育及び様々な施策についても波及効果は大きい。そこで、当該事業では連携のもつ意味は大きい。例えば、学校、市、国際交流協会、企業、他市などとの連携を拡大しなければ継続性ということは望めない。こちらの団体は基本である地域に重点を置いておられることから、この点については大いに評価できる。成果ということについても、なかなか指標が難しいと思うが、満足度（アンケート）、出席数（リピーター等も含めて）などが提示できれば、なお素晴らしいと思う。</p> <p>【委員】 ・外国人の子どもを交えた参加型交流ワークショップを行っているとのことだが、異文化理解の必要性を感じる。 ・他市（足立区など）で行っている多文化共生との連携の必要性を認識している。事業の発展を期待しています。</p> <p>【委員】 子どもたちが触れ合う場にファシリテーターを活用したことは、団体としても今後の活動の中で活かせるのではないのでしょうか。子どもたちの心を開き、友達になるきっかけを提供するプログラムが楽しそうです。</p> <p>【委員】 日本へ来た外国の子どもが日本のこと（食べ物や生活習慣等）を知り、日本の子どもが外国のことを知る。お互いに異文化を知って、仲良くなることは、子どもの将来にとって大変有意義なことではないでしょうか。これからも子どもたちが分け隔てなく出会える場を提供してもらいたい。</p> <p>【委員】 多くの外国からの人が暮らす松戸市でのこの事業は貴重だと思います。さまざまな子どもたちが一緒に遊んだりできる場として、様々な国の行事や料理などに触れる機会が増えるだけでも嬉しいことです。報告されていましたが、途中からでも事業名とは別にイベントのタイトルにしたことは正解でした。 今後、さらにその家族や地域の人たちが集って楽しむ機会につながっていくことを期待します。</p>
4	伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験の講演会等のイベント事業	東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト	<p>【会長】 活動中での連携（大学、栗ヶ沢中学校地域防災委員会、生協）が成立したことは、活動の直接的な成果と併せて、大きな成果だと評価する。避難者の心が開放されることを丁寧に見守りながら後押しすることを期待する。</p> <p>【委員】 少ない予算の中で非常によく頑張っておられる。子どものワークショップをされ、本事業のタイトルのように実践されていることは評価できる。当該事業は講演会開催が目的であり、成果としては何が指標となるかが難しい。その辺りを精査されたら、一層「評価」としては堪えられるものとなるだろう。大いに期待したい。</p> <p>【委員】 ・3日間生き延びるためのメニュー作りが大変参考になったと思う。 ・ワークショップ、講演会及びパネルディスカッションを通じて、「大震災を風化させない」ために、他団体（栗ヶ沢中学校地域防災委員会）、地域、大学と連携していく大切さを認識した。 ・黄色いハンカチと、伝えられる点をがんばってほしい。</p> <p>【委員】 講演会、イベントの開催は避難者当事者の主体性を活かすことが、今後につながると思われま。また、この市民活動助成制度がきっかけで知り合った他団体等と連携する等、積極的な活用を期待します。</p> <p>【委員】 避難者の体験を知るといことは、松戸市民にとっても、防災に関心を持つよい機会だと思います。これからも避難者と市民の結びつきをサポートすることで、防災への意識を高めてほしい。また、本事業が他の団体と交流を持つことによって、相乗効果が発揮されれば更に良いと思います。</p> <p>【委員】 市内などへ被災されている方々への地道な働きかけや、交流の場を広げておられることに一市民として感謝しています。また被災地の行政の方々、松戸市行政等を交えての交流は、視点も広がり客観的に現状を把握することにつながり重要なことだと思います。被災されている方々が中心になっての催しやプロジェクト「サロン」のスタッフとして活動する方もいることは非常に大事な視点だと思います。また「避難者が自主的に組織化し、助成金を得て広域的な自主避難者の会を開催したこと」は、貴団体の支援の大きさを感ずります。 他団体や大学との連携もできたことは、特に素晴らしいことです。</p>

5	けん玉で遊ぼう事業	昔のあそびと遊ぼう会	<p>【会長】 「けん玉」を媒介とした世代交流、地域交流を促す好機になったと評価する。</p> <p>【委員】 「けん玉」をツールに、高齢者から子どもまで異世代交流を実践できる当該事業は、様々な効果が期待できる。その際投入と成果を明確に区別し、インパクト（波及効果）を明示することも評価のために必要である。数値が全てとは言わないが、指標をどのように作るかを考えながらすばらしい実践をしてもらいたい。コミュニティ教育及び市教育としても、効果が期待できる事業である。それだけに、他者からの評価に堪えられるようにして頂きたい。</p> <p>【委員】 ・参加者が400名おり、高齢者と子どもが参加交流できる機会は重要である。 ・ライセンス受講料（5,000円）については、今後人材育成のために必要である。</p> <p>【委員】 1年間の実施で回を重ねるごとに人数が増えてきたところが、けん玉でつながる多世代交流の魅力かと思われます。団体では他の昔遊びも積極的に実践されているようで、その参加者も増えているのではないのでしょうか。六実地域のより豊かなコミュニティづくりに期待しています。</p> <p>【委員】 けん玉が単に子どもの遊びだけでなく、高齢者の認知症予防などにも役立つとのこと、これからも活動を各方面に広げていってほしい。けん玉教室も六実地域では定着しているようなので、他の地域との交流を進めて、更にけん玉を広げてもらいたい。</p> <p>【委員】 この場を子どもの遊びと捉えていたが、大人、高齢者の参加も増加しているのは良いと思います。参加費を徴収しないで行ってくださるので、より誰でも気軽に参加しやすいと思います。PR活動も、ポスターやチラシだけでなく、デモンストレーションを見てみたいです。</p> <p>【委員】 「けん玉」を通して、地域の、また他市からの参加者を一同にして交流できていることは、様々な他団体への応援にもつながるように思います。主催者自身も「（資格）段」を取得するとは、一石何鳥でしょうか……。特に地域の行政（六実支所）に働きかけ、連携が実現したのは、代表者の様々な活動実績と信頼によることだと思っています。</p>
---	-----------	------------	--

6	日帰り滞在型観光「“葵の里”観光ガイド(チラシ)の作成」事業	まつど学びの旅推進協議会	<p>【会長】 地図に仕上がるまでの経過（市民参加の学びを通じて材料を整理など）を判るように示すことが、この活動の価値を多くの市民が認める重要な点になる。</p> <p>「市民活動助成事業」の表記を失念したのは、この制度が多くの市民や事業者の寄附で支えられている点からして、大いに反省すべき点である。</p> <p>【委員】 当該事業は、参加、協働の視点がわかりにくく、他の補助金に申請したほうがよいと指摘される可能性がある。充実したマップを作ることは地域振興、商工観光に役立つ。しかし、市民活動といかなる関係があるかを明示しなければ市民に対するの説明責任を果たしたことになる。是非「協働」の観点を入れた事業展開を意識してほしい。</p> <p>【委員】 ・市民活動・協働・連携がよくわかるよう報告できると良い。 ・本ガイドは、学びのウォークの成果であると感じる。 ・本ガイドに市民活動助成事業のシールを貼ること等を要望する。</p> <p>【委員】 まつど散策マップの作成について、他のエリア、他の情報についても作成することをお考えのようですが、まずは今回発行されたマップを実際に活用するプログラムを実施する中で、内容、使いやすさ等を市民から直接ヒアリングすることが必要です。市民がまち歩きに活用して初めてこの事業の成果につながると思います。今後のマップを活用した散策会に期待します。</p> <p>【委員】 松戸市の市民活動助成事業の一環として立派な「まつど散策マップ」が出来たと思います。マップと各施設等が見やすく、色も落ち着いていてよくできています。今後も他のエリアについて、検討・作成を期待しています。</p> <p>【委員】 トイレ情報が記載されているのは、利用者にとっても役立ちますが、このようなマップに普通記載されている縮尺記号や、およその所要時間が無いのは不便に思えます。</p> <p>【委員】 観光ガイドに「松戸市民活動助成事業」の記載がないことは、申請・認可団体と行政の、取り組み姿勢が甘く、責任があります。すでに配布されている成果物への対応に関する結論を出す必要があります。ガイドについては、今後多くの人の活用が期待されます。</p>
7	「知っておくと安心！食品の安全な取り扱い手帳」の作成事業	食の安全安心を考える市民の会	<p>【会長】 「消費者にも責任がある」点を基軸にした内容で冊子を構成した新しい視点と併せて、いっぱい思いを限られたページに集約し、見やすさ、判り易さの点で削ぎ落とした苦勞に感心する。 思いを伝えるには、デザインの力がたいへん有用であるので、その点も大切に、今後の活動を続けて欲しい。 消費者に近い企業を巻き込んで、この冊子の活用機会を増やし、また増刷改定することを期待する。</p> <p>【委員】 当該事業は、団体の成立経緯も踏まえ、市民活動の趣旨に沿ったものである。市当局と共に協働事業にしても良いと思われる。個人的には、NPO、市民活動団体は行政に頼らず一人立ちした地域活動が行われるべきだと考えるが、当該事業はその範疇を超えるすばらしい事業である。今後の展開に期待したい。</p> <p>【委員】 ・完成した小冊子を市民に手渡すため、お弁当ワークショップなどを交えた手帳完成報告会を行ったことは、素晴らしいと評価します。 ・今後手帳の増刷を検討しているとのことだが、ネット配信も視野に入れてほしい。消費者にどのように伝えていくかが課題である。</p> <p>【委員】 作成された冊子は食品の安全な取扱いについてわかりやすく表記しており、身近な情報として広く活用できるものと思います。今後の活用についても検討されていますが、他団体との連携等も視野に入れることに期待します。</p> <p>【委員】 作成された手帳は、食品の選び方、表示の見方や取り扱い方法など、随所にイラストも入って、とてもわかりやすくできています。この手帳がより多くの人に、有効に使われるように配布方法など検討していただきたい。また、今後も企業や学校などとの連携を深め、食の安全に対する更なる研究・発展を期待します。</p> <p>【委員】 消費者の責任意識を重視し、いろいろ案が出た中からの削ぎ落とし作業は、さぞご苦勞されたと思います。しかし、そのおかげで、一本節の通ったより良い手帳となり、今後幅広い世代への配布、またそれを使った活動に期待致します。</p> <p>【委員】 食関係をとりまく様々な角度からの項目を網羅していながら、比較的読みやすく楽しめる編集になっていることに感心します。会員のご努力がうかがわれます。冊子編集後記に、冊子作成への経過が記載され、市民へ向けての松戸市協働事業の周知も盛り込まれ、嬉しい限りです。</p>

8	働きたい子育て中の主婦のための在宅パソコン講習事業	特定非営利活動法人就労サポート・キャリアプラス	<p>【会長】 パソコン講習を介しての子育てママの再就職支援において、当初の数値目標を達成したことを評価する。この事業で得た知見と改善点をふまえて、女性の再就職支援の事業を再設計し、継続されることを期待する。</p> <p>【委員】 市民活動として子育て中の主婦の就労支援をするのは、本助成金の意義にもふさわしい。今後も、市内の主婦たちの為の支援をお願いしたい。評価としては「成果主義」「定量化」ということを念頭に置いてほしい。ある意味においては、もっとも定量化できる分野かもしれない。指標（成果）、そしてその内容を選び折り説明責任を果たしてほしい。</p> <p>【委員】 ・受講料が無料との事だが、助成金がなくなった場合、どの程度負担になるか視野に入れていく必要がある。 ・会社を休む理由や、働く為の意識付けについて、女性が働く環境が整っていないことへの改善を今後考えていく必要がある。</p> <p>【委員】 働きたい主婦にとって在宅でパソコン研修を受けられることは参加しやすく良い機会となり、終了後に9名が再就職を果たしたことは当初の目標に沿って良い成果です。また、今回実施した再就職のための講座内容について、パソコンスキル以外にも必要なスキル等の気づきもあり、次の展開に期待します。</p> <p>【委員】 受講生19名中11名が仕事に就くことが出来たことはとても素晴らしいと思います。反面4割強の人が、activeでなかったというのは、とても残念です。ただ、子供の世話などで時間的に制約を受けている主婦にとっては、とても良い事業だと思います。今後も何かの方法で、このようなサポートを続けてほしい。</p> <p>【委員】 「働きたい子育て中の主婦」イコール小さい子どもを持ったというイメージですが、今回この講習で熱心だったのは、中学生のママ達だったとの事です。実際、子どもに手がかからなくなり再就職への意識は高いが、パソコンの普及する頃に家庭に入っているため、スキルを持たない人が多いと思います。今後、この事業を再スタートする時は、20～30代の子育て主婦と共に、このような40代ママ達も積極的に受け入れ、より盛んに展開していただきたい。</p> <p>【委員】 子育て中の受講生19名中9名が、またPC使用での就労がプラス2名という結果は、素晴らしいと思います。「e-ラーニング」を用いている企業も多々あると聞いてはいますが、身近な場所（市内、NPO法人）で活用している事例を知り、この事例で活力を得る若い人たちが増えることも期待できます。今後のご活動に、期待します。</p>
---	---------------------------	-------------------------	---